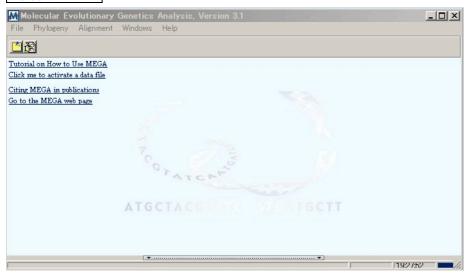
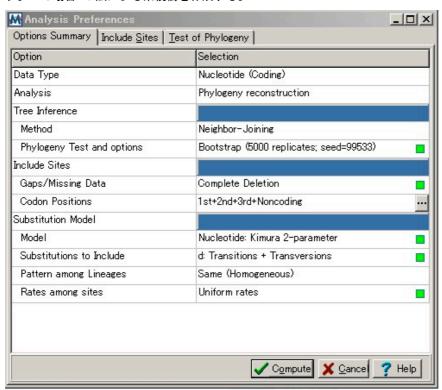
系統樹を作成する



メインのウィンドウに戻る

Phylogeny タブをクリック→Bootstrap test of phylogeny → 4 つの方法が出てくるので好きな方法をクリック。この場合 NJ 法による系統樹を作成する。



このようなウィンドウが立ち上がる。それぞれの項目の後ろにある■をクリックすると・・・・に変わり、アクティブな状態になる。それぞれの選択肢が示されるので目的に合うものをクリックする。

たとえば、Kimura 2-parameter で JCmodel を用いたいときは

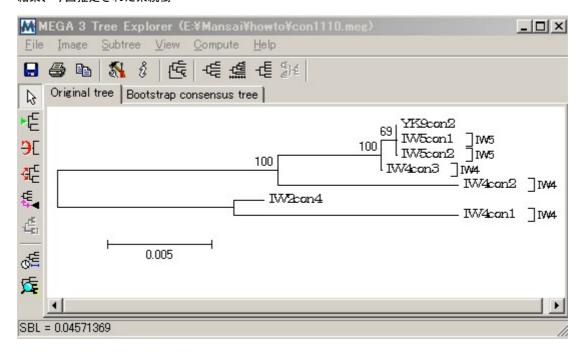
nonsynonymous、Aminoacid と選択できるモデルが示される。この場合 Nucleotide を選択するとさらに細か

いモデルが示されるので、JC model を選択し、 Compute をクリックすると計算が始まる。

※Syn-nonsynonymous モデルを選択した場合、Synonymous site を使うか nonsynonymous site のどちらを使って計算するかを聞かれるので選択する必要がある。



結果、今回推定された系統樹



アイコンをクリックすると、系統樹の幅、長さ、スケールの取り方、フォント、ラベルなどを設定することができる。

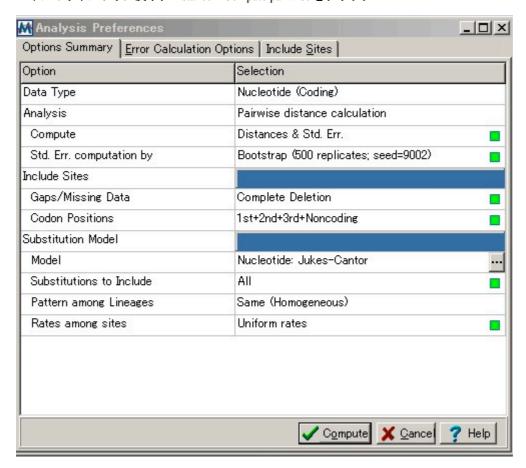
アイコンでは系統樹の形を変えることができる

アイコンをクリックし、ルートにしたい配列をクリックすると、選択した配列をルートにとった系統樹に書き直すことができる。

Pイコンをクリックすることで系統樹自体は保存できるが、mts ファイルという MEGA でしか使えないフォーマットなので、実際に画像として保存するためには、Image→Copy to Clipboard でクリップボードに貼り付けるか Image→Save as EMF でイメージファイルとして保存する必要がある。

各種解析

MEGA ではさまざまな解析を行うことができる。一例としてそれぞれの配列ごとの違いを計算する。 メインのウィンドウに戻り、Distance→Compute pairwise をクリック

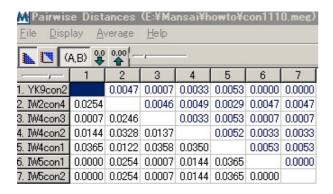


このようなウィンドウが立ち上がる。先ほどと同様にモデルを選び、Compute をクリックすると計算が始まるが、

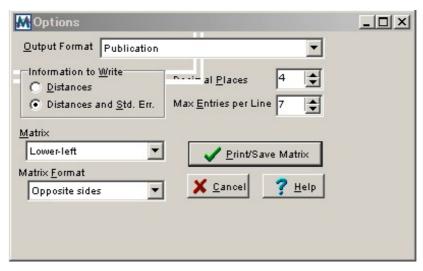


Distance と同時に Standard Error も求めることができる。デフォルトでは Distance only になっているので選択する必要がある

計算結果はこのようなウィンドウで示される。右上が Standard Error、左下が Distance である。



File→Export Print/Distances..で結果を Export することができる。それをクリックすると以下のウィンドウが立ち上がる



なにもいじらずに Print/Save Matrix をクリックすると、以前ドメイン・グループの設定をしたときに立ち上がったウィンドウに、今回は以下のようなテキストファイルが Export される

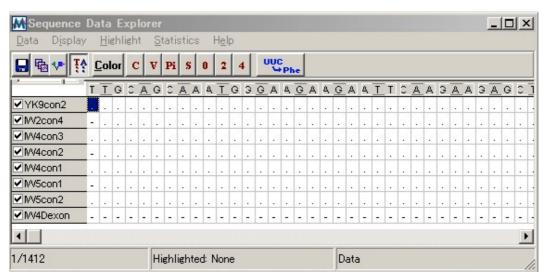
```
Title:
Description
 No. of Taxa : 7
  No. of Groups : 2
 Data File : E:\Mansai\howto\con1110.meg
 Data Type : Nucleotide (Coding)
 Analysis : Pairwise distance calculation
   Compute : Distances & Std. Err.
   Std. Err. computation by : Bootstrap (500 replicates; seed=9002)
  Include Sites : ========
   Gaps/Missing Data : Complete Deletion
   Codon Positions : 1st+2nd+3rd+Noncoding
 Substitution Model: ===============
   Model : Nucleotide: Jukes-Cantor
   Substitutions to Include : All
   Pattern among Lineages : Same (Homogeneous)
   Rates among sites : Uniform rates
 No. of Sites : 1403
  d : Estimate
 S.E : Standard error
[1] #YK9con2
[21 #IW2con4
[3] #IW4con3 {IW4}
[4] #IW4con2_{IW4}
[5] #IW4con1_{(IW4)
[6] #IW5con1_{(IW5)
[7] #IW5con2_{IW5}
             [0.0047][0.0007][0.0033][0.0053][0.0000][0.0000]
[1]
                     [0.0046][0.0049][0.0029][0.0047][0.0047]
    0.0254
[2]
     0.0007
              0.0246
                              [0.0033 ][0.0053 ][0.0007 ][0.0007 ]
[3]
     0.0144
              0.0328
                      0.0137
                                      [0.0052][0.0033][0.0033]
[4]
     0.0365
              0.0122
                      0.0358
                               0.0350
                                               [0.0053 ][0.0053 ]
[6]
     0.0000
              0.0254
                      0.0007
                              0.0144 0.0365
                                                        [0.0000]
    0.0000 0.0254 0.0007 0.0144 0.0365 0.0000
[7]
```

この表をエクセルに保存するとよい。(エクセルにペースト→データ→区切り位置)

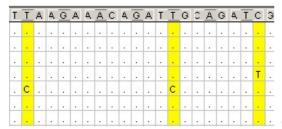
おまけ

多型サイトの表を作りたいとき

メインのウィンドウの**述**アイコンをクリックすると、**シーケンスエクスプロラ**ーが立ち上がる

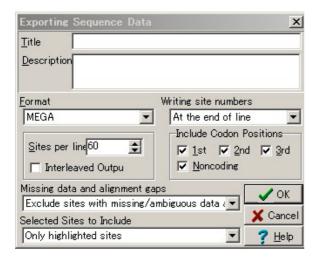


Highlight をクリックすると、候補が挙げられ、それぞれ選らんだ配列がハイライトされる



__ (Variable site を選んだ場合) これを Export するために

は Data→Write to Data file をクリック



Selected Sites to Include が Only highlited sites になっていればよい。また、Writing site numbers は each site に すると便利である。



書き出した結果。多型サイトのみが抜きだされている。

今回紹介した例は MEGA 全体の機能の中のほんの一例に過ぎない。

実際にいろいろ遊んでみて MEGA を使い倒そう★☆★

んじゃ。平成 18年 11月 11日